

## 岡山多文化共生政策研究会 第7回 議事概要

日 時 平成 23 年 3 月 14 日 (月) 15:30~17:00  
場 所 岡山国際交流センター 8F イベントホール  
出席者 岡山大学教員 7 名 岡山市及び総社市職員 (財)岡山県国際交流協会職員  
岡山県国際課職員 4 名

### ○岡山大学 あいさつ

今回は、研究会の報告書が完成したことの報告と来年度に向けてどのように研究会の事業を進めて行くのかを協議いただくことが主な内容である。

大学としては、県、市町村、関係団体との協力が大切であると考えており、引き続き研究会を開催していきたい。このため、今後とも会員の関係を密にし、連携していきたいのでよろしくお願いしたい。

### ○岡山多文化共生政策研究会報告書について (議題 1)

岡山県国際課から、前回の研究会の後、若干の修正を加えたが岡山多文化共生政策研究会報告書が完成した旨説明があった。岡山県では、報告書作成のため研究会で検討してきたことを県の国際化の行動計画である「新おかやま国際化戦略プラン」の策定に生かしているとのことであった。今後、報告書を印刷し、会員や関係者へ配布することとした。

なお、報告書については、岡山大学が学内記者クラブに対して来年度機会を見つけ、定例記者発表において公表することとなった。併せて、岡山県国際課のHP等にも掲載することとした。

座長からは、報告書について会員の積極的な活用依頼を行った。

### ○平成 23 年度多文化共生事業等について (議題 2)

岡山市、総社市、岡山県から来年度取り組む多文化共生事業について説明があった。

(別添資料参照)

### ●岡山市 多文化共生のまちづくり推進事業 (平成 23 年度事業計画)

基本的には、22 年度事業を承継しているが 22 年度を踏まえて 23 年度変更を加えた事業について説明する。

多言語行政相談については、中国を中心に増加しており、また好評をいただいている。生活相談では、DV 関係が増えており、充実させていきたい。

多言語生活オリエンテーションは、H22.6~H23.3 までで、113 名実施した。

多文化共生推進コーディネーターは、ポルトガル語の需要が増えているので、その人材確保が課題となっている。

岡山市外国人市民会議は、設置条例を制定するとともに 3 期は各論にテーマを絞って議論を深めていきたい。

(岡山大学)

- ・岡山市外国人市民会議のメンバーはどんな人を予定しているか。

(岡山市)

- ・在住外国人の中から公募する予定としており、白紙の状態である。有識者等はメンバーに入っていない。

(岡山大学)

- ・外国人市民会議設置条例制定の意味は。

(岡山市)

- ・市として公的に位置づけて重点的に取り組んで行くということだ。

(岡山大学)

- ・オリエンテーションの具体的内容を教えて欲しい。

(岡山市)

- ・一人当たり 10 分程度で、リビングガイドや防災ガイドを配布して、一通り説明した後に質問に答えるようにしている。

(岡山大学)

- ・多文化共生推進コーディネーターは県のサポーターとはどう違うのか。

(岡山県)

- ・個別の外国人サポートのボランティア（地域共生サポーター）は、県が先駆けて行ったが、市町村が育成するボランティアとの役割分担を今後考えていきたい。

## ●総社市 総社市の多文化共生施策の概要

平成 23 年度の取組について説明したい。

日本語教室を昨年度 3 講座、文化庁の補助事業を活用して行ったが、育児付の日本語教室が好評で引き続き実施する。また、日本語教室のボランティア養成講座については、ボランティアがチームとなって、外国人のサポートを具体的にできるよう力を入れていきたい。

また、医療関係は、多言語受診票と医療機関のマップを NPO の協力を得て作成することとしている。交流イベントもコミュニティの中で大きいものを考えている。

図書館の利用促進については、現在、外国人向けの絵本コーナーは設置されている。その他の図書については、今後検討していきたい

なお、外国人集住都市会議に参加しているが、来年度は、外国人コミュニティの関係で研究を進めることとしている。総社市でも、ブラジル人コミュニティの活動が活発となっており、不就学の解決などにも取り組んでいる。総社市としてもコミュニティの活用を考えていきたい。

(岡山大学)

- ・医療機関との連携であるが、今後、その NPO とどういう取組をしていくのか。

(総社市)

- ・多言語受診票については、既に NPO が作成しているものを活用しようとしている。また、防災教室の開催や出産の指導などでノウハウを提供していただこうと考えている。
- ・受診票については、総社市内の医療機関に配布するとともに在住外国人にも救急車の呼び方や

保健情報などを追加したものを作成して配布する予定である。

(岡山大学)

- ・行政では、多文化共生、国際貢献、国際交流の事業を別々に行っているが、ある大学の先生からも、岡山県はせっかく国際貢献条例があるのだから、国際貢献と多文化共生がうまく融合した施策を考えるとそこに県のオリジナリティが生まれてくるとの提案をしていただいたこともある。
- ・総社市は、ブラジルへの NPO と連携した緊急派遣を通じて、多文化共生と国際貢献をリンクさせているように思えるが、多文化共生、国際貢献、国際交流の協働をうまく説明できないか考えている。

(総社市)

- ・今回の緊急派遣について、総社市に対してブラジル人が感謝をし、市に協力を申し出ている。
- ・総社市がブラジルで知られるようになっており、信頼関係も醸成されている。

(岡山大学)

- ・一般的に、市のカウンターパートは市となっていると思うが、総社市の取組は、市と市との交流を超えた評価があると感じている。

(岡山県)

- ・岡山県の国際貢献の取組は、NGO 等が行う国際貢献活動支援が中心となっているが、総社市として、ある国に職員を派遣するという点を説明する必要があると思う。
- ・新しいプランでも、多文化共生と国際貢献は、根本の部分でつながっているという構成になっている。

#### ●岡山県 平成 23 年度岡山県の多文化共生関係新規事業

岡山県では、平成 21 年度に実施した「在住外国人生活状況調査」結果を踏まえて、4 つの新規事業に取り組むこととした。

言葉の問題に対応するために、日本語学習指導者のスキルアップを図る事業、行政情報が届いていないとの指摘に対応するために、啓発を行う在住外国人やボランティアの中からのキーパーソンの育成、急増する留学生を岡山の発展のために活用する留学生の就職支援などのフォローアップ、外国人相談窓口と女性や青少年問題などの専門相談機関の連携などに取り組むこととした。

#### ○今後研究会として取り組むべきテーマについて（議題 3）

岡山県国際課から、平成 21 年度は、「岡山県在住外国人生活状況調査」の調査内容や調査報告書の検討を行い、平成 22 年度は「岡山多文化共生政策研究会報告書」の作成に取り組み、今年度までは、多文化共生について総論的な検討を行ってきたが、来年度以降は、具体的にテーマを絞って、深く検討を加えていきたいと考えている旨提案を行った。

(岡山県)

- ・1 年目に調査を行い、2 年目に調査をもとに検討を加え報告書としてまとめた。行政としては、3 年目はアクションだと考えている。
- ・行政と大学では目的も違うので、アプローチの仕方について皆様の意見を伺いたい。

(岡山大学)

- ・学術的な方面から何かできればと思っており、ワークショップやミニシンポジウムなどの開催も考えてみたい。

(岡山県)

- ・少し考えを変えて、人口減少社会において、社会の活力を維持するための外国人の活用を検討するなどベーシックな議論をしていくことも考えられる。

(岡山大学)

- ・これまでの活動を踏まえた上で、新年度、WG を活用して課題を見つけると同時に各自でも課題を考え取り組みやすいところから議論を深めていくのもやり方だ。

○岡山県 閉会あいさつ

皆様のご協力により、研究報告が完成し、岡山県の新しいプランにも活用させていただいた。

多文化共生について、議論を重ね、突っ込んだ記述を行い、高いレベルの報告書となったと考えている。

来年度は、県が行っている救援物資の備蓄基地の見学なども考えてみたいので、引き続きよろしく願います。

○閉会